

執筆者紹介

大橋 信弥（おおはし のぶや） 滋賀県立安土城考古博物館学芸課長

立命館大学大学院文学研究科日本史学専攻修士課程修了

【著書・論文】『日本古代国家の成立と息長氏』（吉川弘文館 1984年）、『日本古代の王権と氏族』（吉川弘文館 1996年）、『古代豪族と渡来人』（吉川弘文館 2004年）、『継体天皇と即位の謎』（吉川弘文館 2007年）

Charlotte von Verschuer（シャルロット・フォン・ヴェアシュア） フランス国立高等研究院教授

【著書・論文】『Le riz dans la culture de Heian, mythe et realite』（『平安時代の五穀文化』 Paris：College de France DeBoccard 2003年）

「九世紀日本の情報輸入体制」（『アジア遊学』 26 2001年）、「日本古代における五穀と年中行事」（『史学雑誌』 118-1 2009年）

関 周一（せき しゅういち） つくば国際大学・武蔵大学他非常勤講師

筑波大学大学院博士課程歴史・人類学研究科単位取得退学・博士（文学）

【著書・論文】『中世日朝海域史の研究』（吉川弘文館 2002年）、『火縄銃の伝来と技術』（佐々木稔編、共著、吉川弘文館 2003年）

「香料の道と日本・朝鮮」（荒野泰典・石井正敏・村井章介編『アジアのなかの日本史』第Ⅲ巻 海上の道 東京大学出版会 1992年）、「唐物の流通と消費」（『国立歴史民俗博物館研究報告』第92号 2002年）、「明帝国と日本」（榎原雅治編『日本の時代史』第11巻 一揆の時代 吉川弘文館 2003年）、「朝鮮三浦と対馬の倭人」（五味文彦・小野正敏・萩原三雄編『中世の対外交流―場・ひと・技術―』高志書院 2006年）

鈴木 靖民（すずき やすたみ） 國學院大學大学院委員長・教授

國學院大學大学院文学研究科博士課程単位取得退学・文学博士

【著書・論文】『古代対外関係史の研究』（吉川弘文館 1985年）、『倭国と東アジア』（編著、吉川弘文館 2002年）、『古代日本の異文化交流』（編著、勉誠出版 2008年）、『円仁とその時代』（編著、古志書院 2009年）

濱田 耕策（はまだ こうさく） 九州大学大学院人文科学研究院教授（朝鮮史学講座）

学習院大学大学院人文科学研究院博士課程修了（博士・史学）

【著書・論文】『渤海国興亡史』（吉川弘文館 2000年）、『新羅国史の研究』（吉川弘文館 2002年）

酒寄 雅志（さかより まさし） 國學院大學栃木短期大学日本史学科教授
一橋大学大学院社会学研究科博士課程単位取得退学・博士（歴史学）

【著書・論文】『渤海と古代の日本』（校倉書房 2001年）

「古代日本と蝦夷・隼人、東アジア諸国」（佐藤信編『律令国家と天平文化』吉川弘文館 2002年）「最澄の将来目録と遣唐使の印」（『栃木史学』20 2006年）、「遣唐使時代における渤海の位置」（『東海史学』41 2007年）、「北関東の古代社会と渡来人・蝦夷」（『国史学』198 2009年）

森 公章（もり きみゆき） 東洋大学文学部教授
東京大学大学院博士課程単位取得退学・博士（文学）

【著書・論文】『古代日本の対外認識と通交』（吉川弘文館 1998年）、『古代郡司制度の研究』（吉川弘文館 2000年）、『長屋王家木簡の基礎的研究』（吉川弘文館 2000年）、『遣唐使と古代日本の対外政策』（吉川弘文館 2008年）、『地方木簡と郡家の機構』（同成社 2009年）

王 維坤（Wang Wei-kun） 西北大学国際文化交流学院副院長・教授
同志社大学文学博士

【著書・論文】『中日の古代都城と文物交流の研究』（朋友書店 1997年）、『中日文化交流的考古学研究』（陝西人民出版社 2002年）、『古代東アジア文化交流の総合的研究』（共編、国際日本文化研究センター共同研究報告 2008年）、『鼎談 天武・持統朝に日本文化は成立したか』（話者・上田正昭・山折哲雄・王維坤 司会・小橋弘之、京都文英堂 2009年）

「論西安北周粟特人墓和鬲賓人墓的葬制与葬俗」（『考古』2008年第10期）、「論北魏洛陽城的建制及其特点」（西北大学考古学系・西北大学文化遺産与考古学研究中心編『西部考古』第3輯 三秦出版社 2009年）、「唐日本留学生井真成墓誌的發現与最新研究」（西安碑林博物館編『碑林集刊』第14輯 三秦出版社 2009年）

李 浩（Li Hao） 西北大学文学院院长・教授
陝西師範大学文学研究所大学院博士課程修了・文学博士

【著書・論文】『唐代園林別業考論（修訂版）』（西北大学出版社 1998年）、『唐代閩中士族与文学（増訂本）』（中国社会科学出版社 2003年）、『唐代園林別業考録』（上海古籍出版社 2005年）、『唐代三大地域文学士族研究（増訂版）』（中華書局 2008年 日本語訳『唐代<文学士族>の研究—閩中・山東・江南の三地域に即して』研文出版 2009年）、『唐詩美学精読』（復旦大学出版社 2009年）

「論唐代文学士族の遷徙流動」（『文学評論』2005年 第2期）、「大唐之音，和而不同」（『文学遺産』2005年 第4期）、「微型自然、私人天地与唐代文学詮釈的空間」（『文学評論』2007年 第6期）

丸井 憲（まるい けん） 専修大学経営学部兼任講師

北京大学中国語文学系比較文学研究所博士課程修了（文学博士）

【著書・論文】『朱子絶句全訳注第四冊』（共著 汲古書院 2008年）

「杜甫の五言『拗律』について（上）」（『中国詩文論叢』第二十七集 中国詩文研究会 2008年12月）

土屋 昌明（つちや まさあき） 専修大学経済学部教授

國學院大學文学研究科博士課程満期修了

【著書・論文】「神仙幻想」（春秋社 2003年）、「開元期の長安道教の諸問題—金仙・玉真公主をめぐる—」（王維坤・宇野隆夫編『古代東アジア交流の総合的研究』国際日本文化研究センター共同研究報告 2008年）

田島 公（たじま いさお） 東京大学史料編纂所教授

京都大学大学院文学研究科博士後期課程（国史学専攻）中途退学

【著書・論文】『日本、中国・朝鮮対外交流史研究（稿）—大宝元年～文治元年—』（編著、便利堂 1990年、のち「日本、中国・朝鮮対外交流史年表—大宝元年～文治元年—」（奈良県立橿原考古学研究所附属博物館編『貿易陶磁—奈良・平安の中国陶磁—』臨川書店 1993年）、『禁裏・公家文庫研究』1輯・2輯・3輯（編著、思文閣出版 2003年・2006年・2009年）、『福井県史』通史編1 原始古代 第四章 律令制下の若越 第五節「奈良末・平安初期の対外関係」・第六章 若越中世社会の形成 第五節「平安中・後期の対外関係」（共著、福井県 1993年）
「日本の律令国家の「賓礼」—外交儀礼より見た天皇と太政官—」（『史林』68巻3号 1985年）、「外交と儀礼」（岸俊男編『日本の古代』7巻 まつりごとの展開 中央公論社 1986年）、「遣唐使はなぜ派遣されたか」（吉村武彦・吉岡真之編『争点 日本の歴史』3巻 古代編Ⅱ【奈良～平安時代】 新人物往来社 1991年）、「海外との交渉」（橋本義彦編『古文書の語る日本史』2 平安 筑摩書房 1991年）、「大宰府鴻臚館の終焉—八世紀～十一世紀の対外交易システムの解明—」（『日本史研究』389号 1995年）、「真如（高丘）親王一行の「入唐」の旅—「頭陀親王入唐略記」を読む—」（『歴史と地理』502号 1997年）、「冷泉家旧蔵本『長秋記』に見える「高麗」・「渤海」・「東丹国」」（上横手雅敬編『中世公武権力の構造と展開』吉川弘文館 2001年）、「大陸・半島との往来」（吉村武彦編『列島の古代史』4 人と物の移動 岩波書店 2005年）

馬 一虹（Ma Yi-hong） 中国社会科学院歴史研究所副研究員

小笠原 強（おがさわら つよし） 専修大学大学院文学研究科博士後期課程在学

専修大学社会知性開発研究センター／東アジア世界史研究センター リサーチ・アシスタント

【著書・論文】「汪精衛政権行政院からみた政権の実態について―機構・人事面から―」（『専修史学』第38号 2005年3月）、「汪精衛政権の水利政策―安徽省淮河堤修復工事を事例として―」（『中国研究月報』716号 2007年10月）、「共同研究「関東大震災と習志野・船橋―朝鮮人虐殺事件の解明・追悼はいかになされたか（一）千葉県における関東大震災と現代―共同研究の概要と目的―」（『専修史学』第45号 2008年11月）

福島 大我（ふくしま たいが） 専修大学大学院文学研究科博士後期課程在学

専修大学社会知性開発研究センター／東アジア世界史研究センター リサーチ・アシスタント

【著書・論文】「張家山漢簡『二年律令』訳注（一）～（一二）」（共訳、『専修史学』35号～46号 2003年～2009年）、「前漢後半期における皇帝制度と社会構造の変質」（『専修史学』42号 2007年）

矢野 建一（やの けんいち） 専修大学文学部教授

立教大学大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学

【著書・論文】『遣唐使の見た中国と日本』（共著、朝日新聞社 2005年）、『長安都市文化と朝鮮・日本』（共編著、汲古書院 2007年）、『長安都市文化と朝鮮・日本』（共編著、三秦出版社 2008年）
「井真成研究―その後の研究動向によせて―」（『人文科学年報』37号 2007年）、
「中国における入唐留学生研究の動向」（『人文科学年報』38号 2008年）、「遣唐使の派遣と春日山祭祀」（『東アジア世界史研究センター年報』第1号 2008年）